

目次

- ・ 1998年度日本図書館文化史研究会第15回研究集会・総会報告
- ・ 新刊紹介 河井弘志著『ドイツ図書館学の遺産』——小黒浩司
- ・ 「都立日比谷図書館の廃館を許さず、改築の予算措置を求める要請書」(アピール)について
- ・ 日本図書館文化史研究会「臨時総会」(兼・研究発表会)並びに研究例会のお知らせ

1998年度日本図書館文化史研究会 第15回研究集会報告

1998年9月20(日)～21日(月) 於 京大会館(京都)

1日目 テーマ：最近の図書館史研究の特徴と動向

発表1 最近の図書館史研究の特徴と動向：アメリカ

川崎 良孝
(京都大学)

発表者はこれまで社会の変化が歴史学に影響を与え、それが教育史学、さらに図書館史学に影響を与えているとし、そうした過程を1970年代初頭まで追っていた。

今回の発表では、その後の特に二つの方向、すなわちアナル派の歴史記述の視点、方法、それに女性やマイノリティの歴史への関心を指摘したのち、最近の図書館史研究の特徴を、特に従来業績との比較という視点から、具体的に説明した。

そして新しい方向は一般図式を描くにいたっていないものの、各論としてはいくつかのみるべき業績があると、それらを紹介した。

発表2 80年以降の日本図書館史研究の特徴とその課題

—最近の図書館史研究の特徴と動向：日本—

山口源治郎
(東京学芸大学)

80年代以降のわが国図書館史研究について、個別実証研究の蓄積と実証水準が高まったこと、また研究対象が広がり、問題提起的な研究が出現したことなどを積極面として評価し、一方、前近代研究の不足、館種の偏り(公共図書館を対象とする

研究が多い)などを問題点として指摘した。

従来の図書館史研究(石井敦氏)を継承、批判する研究に加え、戦争責任、植民地図書館、図書館利用者、戦後図書館理念の形成過程をめぐる問題など、これまでの研究動向を検討した。今後は、「基本概念」の究明・解明、研究対象領域を広げるなどの研究課題があるとした。

2日目 自由発表

発表3 主体形成過程における一領域としての公共図書館

—アメリカ公共図書館の目的観を手がかりに—

薬師院はるみ

(京都大学大学院教育学研究科)

19世紀後半期、アメリカで創設された公共図書館では、今日では否定される方針(例えば、特定の価値観の教育指導など)が採用されている。当時の図書館は、自身が同時代の価値観に拘束されると同時にその形成の場として機能していた、つまり客体であり主体でもあった、と説く。

発表4 学校図書館法の制定過程に関する一考察

泉山 靖人

(東北大学大学院教育学研究科)

学校図書館法の成立について、公共図書館側の学校図書館に対する反応、学校図書館運動の推進側による学校図書館像、司書教諭制度を巡る議論に分け考察する。社会教育機関として位置づけられる公共図書館と、学校教育の一環としてある学校図書館の相互関係は複雑である。そのため、出発点となった学校教育法施行規則(1947)と文部省『学校図書館の手引』(1948)を取上げ、さらに米国教育使節団の第一次(1946)及び第二次(1950)報告書、全国学校図書館協議会の結成(1950)、図書館法制定(1950)過程を分析する。

当時、公共図書館は成人教育機関としての性格から、学校教育への関わりには消極的だったこと、学校図書館が教材の自由化を背景に、自己学習の場として活動、また公共図書館補完機能としての公開性の期待があったこと、学校図書館職員は司書よりは教員としての専門性が求められ、これが司書教諭の名称につながったこと、などを論じる。

発表5 ドイツ図書館における知的自由

津田 純子

(九州大谷短期大学)

ドイツ図書館史研究とドイツ図書館に分けて分析する。前者のうち、ドイツの検閲に関する研究動向では第1期(1870-1914)、第2期(1918-1940)、第3期(1968-)に分ける。後者では、検閲、出版の自由、公共図書館、啓蒙精神と図書館近代化、民衆

啓蒙の五つの視点を歴史的に概観する。その中で、ドイツ公共図書館が1890年代に導入される。

それは、シカゴ万国博覧会（1893）に参加、アメリカ図書館の現状に触発されてはじまった大学図書館員による「図書室運動」である。その背景には、新発足したドイツ社会民主党の政治活動が再開されるなど、政治・社会状況の変化もあったと説く。

発表6 カナダ（英語系）における児童サービスの黎明

— トロント市立図書館年報（開館から1910年代まで）の記録から —

深井 耀子

（椋山女学院大学短期大学部）

カナダのトロント公共図書館は1884年に開館、リリアン・スミスによって始められたとする児童サービスで著名であるが、今回の発表はこの通説に疑問を持ち、同館年報等を中心に再調査した結果による。結論は、J.ペイン初代館長以来の同館の営々と築いた児童サービスの積み重ねが、1912年のスミスの児童部長就任をもって結実する、というものである。これには、その館の年報報告、関連統計分析などにに基づき調査、同館の児童関係サービスを年表化するなど、発表者の長年にわたるカナダ図書館研究の一端に触れるものであった。

司会：松野高德（椋山女学園大学図書館）／阪田蓉子（梅花女子大学）

1998年度 日本図書館文化史研究会 総会報告

1998年9月21日(月) 15:00～16:00 於 京大会館（京都）

詳細は以下のとおりです。各議案は、すべて総会で承認を得ました。

A 議案

1. 1998年度（1998.4～1999.3）予算（案）

〔資料2〕参照

2. 1998年度活動計画（案）

- ①機関誌『図書館文化史研究』No.15（1998）の編集・刊行（1998年9月刊行）
- ②『ニューズレター』の編集・発行（No.64～67の年4回を予定。No.64～65発行済）
- ③第15回研究集会・総会（京都）の開催（1998.9.20～21）
- ④研究例会の開催（年3回程度を予定）
今年度第1回（東京 6.20）は開催済

⑤運営委員会の開催（年4回程度）

研究例会及び総会開催時を予定 第1回は6.20会合

B 報告事項

1997年度（1997.4～98.3）活動報告及び会計報告

〔資料1、3〕参照

C その他

1. 事務局体制

1999年度（1999.4～2000.3）には、関西地区に「日本図書館文化史研究会」事務局が移転する予定です。したがって、1999年3月をもって、98年度暫定事務局の任務が終了することになります。まだ、半年残っておりますので、その間精一杯努めたいと思います。皆様のご協力をお願いします（詳細は次号の『ニューズレター』に掲載予定）。

2. 会員の現勢と会費納入状況（98年9月15日現在）

会員数 129名

97年度（1997.4～98.3）未納者 7名

98年度（1998.4～99.3）未納者 30名

会費3,000円の内訳（概算）

『ニューズレター』 700円（4号分）

『図書館文化史研究』 1,700円（執筆者への抜刷を含む）

事務局費及び会運営費 600円

以上のように、全員の会費収入と支出が同額なので、10名も未納者が出ると「赤字」です。未納の方のご理解とご協力をお願いします。

3. その他

1999年3月末をもって、現運営委員及び事務局長（暫定）の任期が切れる（『ニューズレター』に数号にわたり、紹介済み）。そこで、総会の席上、事務局と新運営委員は関西地区へ移動することについて事務局から報告、概ねの了解を得た。本年度内に、新規メンバーの提案と了承を得るため、「臨時総会」開催の提案があり、1999年3月招集となる（「臨時総会開催のお知らせ」の項をご参照下さい）。

〔資料1〕 1997年度 決算報告

〔一般会計〕

収入の部

前年度繰越金（平成9.4.1）	344,984.
郵便局普通預金利子（平成10.4.1）	344.
会費納入（振替）	331,000-

内訳	96年度分	1(人)	3,000.	
	97年度分	107	321,000.	
	納入不足者	1	1,000.	
	98年度分	2	6,000.	
第14回大会残額入金	(平成9.9.16)			1,000.
同上	(平成10.4.8)			1,867.
総計				<u>¥ 679,195.-</u>

支出の部

事務局費		19,807.
ニューズレター (No.60～63)		88,800.
機関紙編集・刊行費		221,272.
積立金 (特別会計繰込み)		200,000.
次年度繰越金		149,316.
総計		<u>¥ 679,195.-</u>

〔特別会計：20周年記念事業積立金〕

前年度 (96年度) 繰越金	300,000.
97年度積立金	200,000.
総計	<u>¥500,000.-</u>

監 査 報 告

1997年度の監査の結果、帳簿の記入、事務処理が適正に行われていたことを報告します。

1998年6月20日

監事 池田 政弘 (印)

監事 塩田 一徳 (印)

〔資料2〕 1998年度 予算 (案)

〔一般会計〕

収入の部

会費	330,000.	98年度分 (3000円×110人)
雑費 (利息)	300.	
前年度繰越金	149,316.	
総計	<u>¥479,616.-</u>	

支出の部

事務局費	50,000.	
会議費	10,000.	
消耗費	10,000.	
通信費	20,000.	
交通費	10,000.	
ニューズレター	90,000.	
編集発行費	40,000	年 4 回
送料	50,000	
機関誌刊行費	215,000.	『図書館文化史研究』 No.15
編集費	35,000	入力作業等を含む
発行費	150,000	買取り費用を含む
抜刷費用	30,000	委託送料を含む
研究会運営費	26,000.	
研究大会・総会	10,000	第 15 回大会（京都）関係費
研究例会	6,000	年 3 回（98.6、12、99.3 予定）
運営委員会	10,000	年 4 回程度
積立金（特別会計繰込み）	50,000.	
予備費	48,616.	
総計	¥479,616.-	

〔特別会計：20周年記念事業積立金（1982～2002）〕

1996～97年度積立金	500,000.
1998年度	50,000.
総計	¥550,000.-

〔資料3〕

1997年度 活動報告

1. 第14回研究集会・総会の開催
日時 1997.9.14（日）午後1時～9.15（月）午後3時
会場 立教大学7号館7101号室
2. 機関誌『図書館文化史研究』14号（1997.8）刊行
抜刷は各執筆者に20部提供。なお、印刷・製本費として1部210円程度、約合計21,000円を要します。
3. 会報『ニューズレター』の編集刊行
No.60（1997.5）、61（1997.8）、62（1997.11）、63（1998.2）
4. 研究例会
(1) 1997.6.21（国立国会図書館）
若松昭子：米国ニューベリー図書館の印刷史コレクション—ピアス・バトラー

によるインクナブラ・コレクション形成を中心にー

石井 敦：唯物論者の見た東京の図書館ー併せて戸坂潤の図書館論を評すー

(2) 1997.12.21(法政大学)

後藤純郎：市川清流の生涯ー新資料によるー

山口源治郎：馬場俊明「集書院の落成時期についての一考察」（『図書館文化史研究』第14号）をめぐって

(3) 1998.3.22（法政大学）

米井勝一郎：満州の楠田五郎太について

山口源治郎：『図書館学資料集成（図書館史編）』の編集を終えて

5. 運営委員会の開催

(1)1997. 6.21(土) 国立国会図書館

(2) 97. 7. 9(水) 国立国会図書館

(3) 97. 9.15(月) 立教大学

(4) 97.12.21(日) 法政大学

(5) 98. 3.22(日) 法政大学

6. 図書館振興のための共同アピールについて

「図書館振興のための共同アピール」（『図書館雑誌』1997年5、7～8月号参照）に賛同する個人・団体の一員に名を連ねました（7.23現在で111名・201団体）。時間の関係で、会議開催ができず、運営委員に電話で協議、趣旨に賛同することにしました。事後了承の形になり、申し訳ありません。

なお、アピールのテーマは、「図書館長の司書有資格要件と図書館建設などの財源の確保を求める」もので、提出先は文部大臣と地方分権推進委員長です。

7. 「京都府立図書館の保存について（要望）」の件

本研究会の第14回総会で提案があり、その合意を受けて運営委員会で文案を協議、京都府知事宛てに要望書を小川代表名で送付しました。残念ながら、京都府の決定を覆すには至りませんでした。

8. その他

(1) 事務局は、関東地区がいささか長くなりました。98年度で、国立国会図書館在職の会員を含む関東・東京地区の現在の運営委員会の任期が終わります。ただ、次期事務局に関西地区を予定していますが、事務局体制を整える関係で1年先延ばしの要請があり、98年度（1998.4～99.3）については現事務局が引き続き担当することになりました。会員の皆様のご協力をお願いします。

(2) 会員数は、98年6月15日現在で130名です。現時点での納入者、未納入者の状況は、下記のとおりです。

会 費	納入者	未納入者
97年度（1997.4～98.3）	120名（91.6％）	11名（8.4％）
98年度（1998.4～99.3）	61名（46.9％）	69名（53.1％）

新刊紹介

河井弘志著『ドイツ図書館学の遺産』

小黒 浩司

(作新学院女子短期大学)

このたび河井氏が、標記図書を刊行された。A5判337ページに及ぶ大部の著である。河井氏は『アメリカにおける図書選択論の学説史的研究』（日本図書館協会 1987）によって、アメリカにおける資料選択論史の研究に一応の区切りをつけ、以後ドイツ図書館学説史の研究にその力点を移した。1992年度には1年間のドイツ留学の機会を得、多量の原史料の発掘・収集を行い、精力的にその成果を公にしてこられた。その一端は、本会の機関誌でも発表されているので、会員諸氏もご承知のことと思う。

本書は、氏のそうしたドイツ図書館学説史に関する研究を集大成したもので、既発表の論文15篇に加筆・修正を加えた部分と、書き下ろし部分とで構成されている。18世紀から19世紀にかけてのドイツ図書館学の歴史を研究した、本国ドイツでも類を見ない貴重な研究である。

ただ残念なのは、本書が30部の限定発行であり、もはや入手ができない点である。本書を所蔵する機関も、国立国会図書館、日本図書館協会資料室などに限られている。そこで河井氏もフロッピー・ディスク版での提供のほか、インターネットでの公開の準備を進めている。詳細は下記のアドレスまで、お問い合わせいただきたい。
(河井弘志発行 1998.6)

[E-mail address]

原稿募集

- ◇『図書館文化史研究』16号（1999年9月刊行予定）の原稿を募集します。原稿の締切は99年3月末日です。投稿を予定される方は、下記までご一報下さい。折り返し「投稿規定・執筆要項」をお送りします。

問合わせ、並びに原稿の送付先

小黒 浩司

- ◇「ニューズレター」の原稿も募集しています。研究に関する情報、書評なんでも結構です。（できるだけワープロで、MS-DOS標準テキストの原稿を）事務局（中林）あてお送りください。

「都立日比谷図書館の廃館を許さず、改築の予算措置を求める要請書」
(アピール) について

同館の前身は1908年11月開館の東京市立日比谷図書館ですが、1973年都立中央図書館の開館(有栖川公園)後は、都立日比谷図書館として活動、児童書、新聞雑誌等のセンター機能を果たしてきました。しかし、施設の老朽化に伴い、新日比谷図書館を2003年に開館する方向で改築計画を進めて来たところ、去る9月16日東京都教育委員会から東京都区職員労働組合教育庁支部に対し、次の説明があったとのことです。

1. 1999年度日比谷図書館改築の予算措置が非常に厳しいこと
2. しかし、同年度中の現日比谷図書館の業務終了予定に変更はないこと
それに対し、上記職労教育庁支部は、次の2点の要求を青島都知事宛に要請することにしております。

1. 1999年度予算において日比谷図書館の改築関連予算措置をすること
2. 改築予算が措置されるまでは、日比谷図書館のサービスを継続すること
要請書提出に際し、11月上旬、当研究会に対し団体としての賛同要請が来しました。時間的な制約(「集約期限」11月20日)のため、各運営委員と電話で緊急協議し、その結果、申し出の趣旨はもっともだ、との意見一致を見ました。そこで、事務局から同封の要請書に小川代表名で記入、返送しました。この件については、99年3月13日開催予定の「臨時総会」(京都)で報告し、了承を求めることにいたしました。ご理解いただければ幸いです。

なお、都立日比谷図書館のこの間の経過については、『図書館雑誌』1998年11月号(p.977)をご参照ください。
(事務局 中林隆明)

日本図書館文化史研究会「臨時総会」(兼・研究発表会)のお知らせ

日時：1999年3月13日(土)13～16時(予定)

場所：京都・京大会館

議題：次期運営委員会発足と事務局の関西地区への移動について

本研究会規約(『ニュース・レター』第53号(1995.10.5)掲載)第17条第2項の「運営委員会は、必要があると認めるときは、いつでも臨時総会を招集することができる」に基づき開催するもので、先の第15回総会(1998.9.21)で承認されたものです。なお、臨時総会に先立ち「研究発表会」(1名程度)の実施を予定しています。発表ご希望の方は、「テーマ」をお知らせください。

時間は、質問を含め50～60分です。
(申込先：事務局 中林)

~~~~~ 研究例会のお知らせ（関東地区） ~~~~~

◇ 1998年度 第2回

日時：1998年12月19日（土）午後1～3時（予定）

場所：国立国会図書館・サークル室（西側6階、入口は西口）

発表：山本順一「内側から見た最近のアメリカ議会図書館」（仮題）

中林隆明「ランガナータンの来日について」

- \* 例会の発表者を募集しています。質疑を含めて40分程度です。中間報告的なもの、情報交流（提供）などでも結構です。申し込みは事務局（中林）まで。

~~~~~ 1998年度第3回運営委員会のお知らせ ~~~~~

下記のとおり、研究例会終了後、運営委員会を開催いたします。

日時：1998年12月19日（土）15～16時（予定）

場所：研究例会の会場に同じ

~~~~~ 新入会員

事務局から

◇会費（3,000円）が未納の方には、振込用紙を同封しましたので、ご確認ください。不明な点をご面倒でも事務局までお問い合わせください。

住所変更、異動等ありましたら「通信欄」にご記入ください。

◇臨時総会（兼・研究発表会）の詳細については、次号（67号：2月中旬発行予定）のニューズレターでお知らせします。

日本図書館文化史研究会 事務局 中林隆明